

## **IV 「私たちの政府」 が創るまちづくり**

# 第1章 基本計画の構成

## 1 基本計画の枠組み

### (1) 計画期間

2011年度（平成23年度）から2022年度（平成34年度）までの12年間とし、進捗管理と3年ごとのローリング\*4を行います。

基本計画は、前期6年目を中間評価の時期として位置づけ、戦略の目的、施策体系の計画内容を見直します。

また、3年目、9年目の実施計画（3年計画、1年ローリング）の改定（達成度、事業評価）をふまえ、指標、活動の方向性を見直しを行います。

### (2) 基本計画と実施計画の関係

この新総合計画基本計画では、基本構想の理念、方向性を受け、都市ビジョン、将来像を実現するために必要な目標や活動の方針を示します。具体的な事業や活動は、すべて実施計画に示します。



図5 構想・計画の役割分担

\*4 ローリング：計画の実行→分析・評価→計画の修正・実行というサイクルを繰り返していく方法をいいます。

### (3) 基本計画の構成

基本計画は、次の計画や方針により構成します。

- ア 市域全体のまちづくり計画
- イ 地域まちづくり計画
- ウ 地域づくりのしくみと進め方
- エ 中長期財政計画
- オ 進捗管理の方針基本計画と部門別計画の関係

## 2 基本計画と部門別計画の関係

藤沢市には、他の法令や「ふじさわ総合計画 2020」に基づき、福祉、教育、環境、都市計画、公園みどり等といった行政の部門別に様々な部門別計画が策定されています。

各部門別計画は、新総合計画基本構想に示されている「私たちの政府」で創る、藤沢づくりを支える「新しい公共」と「地域分権」の視点をふまえ、改定時期にあわせて見直しや策定を行うものとしします。

また新総合計画は、新総合計画は、市民、地域と行政の協働によるまちづくりを主体とした、総合的なまちづくりの前提と理念、目標と、それらを実現するための活動を示すものです。

基本計画では、このまちづくりの基本となる目標や方針を定めていきます。

部門別計画は、これらの趣旨に基づき、それぞれの事業の役割や担うべき具体の施策を示していきます。

## 第2章 ふじさわ未来課題

### 1 ふじさわ未来課題

「ふじさわ未来課題」は、将来像を実現する9つの「藤沢づくり」のめざす方向性と3つの活動領域を具体化したもので、基本計画の大きなテーマとなります。

「ふじさわ未来課題」は、各地区での行動と全市の行動の相乗効果を促す、まちづくりの共通課題として、83課題を位置づけます。

基本計画、実施計画においては、この「ふじさわ未来課題」を中心として、課題の実現により、暮らしやすさが向上し、将来像の実現に近づくことと定義して、市民、市民ボランティア、NPO、大学、企業と行政が協働して活動を進めていきます。

### 2 ふじさわ未来課題マトリックス

「ふじさわ未来課題」と「重点・ふじさわ未来課題」の関係や位置づけについては、「ふじさわ未来課題マトリックス」に集約します。

### 3 重点・ふじさわ未来課題

「ふじさわ未来課題」のうち、この基本計画、実施計画において重点的に取り組むべき課題を「重点・ふじさわ未来課題」として位置づけます。

「重点・ふじさわ未来課題」は、次の特性を持っており、この特性に従った活動が期待されます。

#### ① 協働型の課題解決で価値向上へ

重要度が高いため、改善に取り組むことで、充実感、共感を得られる可能性が高い取り組みでもあることから、効果的な参加・協働の方法を推進しながら、様々な主体の協働による試行錯誤や工夫による活動を目指します。

#### ② 強みや魅力の維持・向上を

藤沢市や各地区の特長や魅力として考えることや、これまでの施策や活動が評価を得ていると考えることが出来るものであるため、更なる取り組みを通じて、生活価値の一層の向上をめざします。

#### ③ より効率的に価値の維持を

特定の地域、世代で大切に思われているケースもあるため、効率的な取り組みや周知啓発によって価値を維持向上することをめざします。

#### ④ 熟慮と根拠ある未来戦略を

市民の身近な生活実感の積み上げの分析からは、相対的に優先度が低く位置づけられることになったものについては、明確かつ具体的な根拠をもとに、戦略的な取り組みを進めます。

